

腹腔鏡内視鏡

合同手術研究会

Laparoscopic Endoscopic Cooperative Surgery

第9回 2014年3月22日

■演題 12	胃粘膜下腫瘍に対する非穿孔式内視鏡的胃壁内反切除術 Non-exposed Endoscopic Wall-inversion Surgery (NEWS) の普及に向けて～手技の変遷と問題点～
--------	---

東京大学医学部附属病院光学医療診療部 1)、

東京大学医学部附属病院消化器内科 2)、

東京大学医学部附属病院胃食道外科 3)

新美恵子 1) 2)、愛甲丞 3)、山下裕玄 3)、小田島慎也 2)、山道信毅 2)、藤城光弘 1) 2)、

瀬戸泰之 3)、小池和彦 3)

非穿孔式内視鏡的胃壁内反切除術 Non-exposed Endoscopic Wall-inversion Surgery (NEWS) は、軟性内視鏡と腹腔鏡を用いて胃内腔を管外に露出させずに胃壁を全層切除する低侵襲な胃局所切除術であり、播腫を危惧することなく、必要最低限の切除範囲で切除が可能である。当院では2011年4月から臨床導入し、2013年12月までに9例施行した。手技自体は概ね確立してきたが、まだ改良や工夫の余地があると思われる。NEWSは、①腹腔側アプローチによる病変周囲処理、②胃内腔側および腹腔側からの病変周囲マーキング、③腹腔鏡下での漿膜筋層切開と病変を内反させながらの漿膜筋層縫合、④胃内腔側からの内視鏡下での粘膜切開、⑤経口からの病変回収、のプロセスからなる。治療成績は、男性 / 女性 5/4 例、年齢中央値 61 歳、切除径中央値 36mm(28-50mm)、腫瘍径中央値 25mm (17-45mm)、術時間中央値 191 分 (140-397 分)、出血量中央値 30g (0-250g) であり、病変は全て一括切除され、重篤な偶発症は認めていない。今回、当院での NEWS 治療成績からみた手技の変遷と NEWS の普及に向けて現時点での問題点について検討し、NEWS のさらなる発展を目指したいと考えている。